

北区民まちづくり会議 第1回地域コミュニティ賑わい部会 摘録

日 時： 平成29年9月29日（金）午後6時30分から午後8時15分

場 所： 北区役所大会議室

【開会】

○事務局

開会宣言

【区長挨拶】

○松本区長

皆さんこんばんは。本日は大変お忙しい中、またお疲れのところ、お集まりいただきありがとうございます。

本日の地域コミュニティ賑わい部会では、「町内会加入率の向上」をテーマに議論することとしている。このテーマについては、昨年度の部会でも熱心にご議論いただいた。

北区制60周年を契機とし、今後の北区の未来の指針となる「北区民つながるプログラム」を策定したが、この中で、平成32年度までに自治会加入率を80%に高めようと、大変高い目標を掲げているところである。北区としてこの問題にしっかりと取り組んでいく必要があると考えている。

本日は、“マンション住民”，“大学生”，“町内会を辞めていかれる方”へのアプローチを考えていきたい。

本日お集まりの皆様のそれぞれのお立場で忌憚なく自由にご意見をいただいて、みんなで考えを共有出来ればと思っている。

本日は、最後までよろしくお願いする。

【議事】

○事務局

続いて、初対面の方々もいらっしゃるため、各テーブル内で自己紹介をお願いします。

<自己紹介>

それでは本日の会議を始める。会議の進行については、本部会の部会長である関谷先生にお願いしたいと思う。関谷先生、よろしくお願いする。

○部会長

それでは、お手元の次第に従い、議事を進行する。「議題1自治会・町内会加入に係るワークショップについて」。ワークショップに入る前に、前方のスクリーンで地域コミュニティ賑わい部会のねらい及び昨年度の議論の内容、本日の流れについて、事務局から説明していただく。

○事務局

<（パワーポイント）に基づき説明>

このパワーポイントでは、地域コミュニティ賑わい部会のねらい、昨年の議論とまとめ、今年度の議論、今日のワークショップの流れをご説明したい。

まず、地域コミュニティ賑わい部会からのメッセージについて。

今日、情報や物が容易に得られるようになり、私たちを取り巻く社会はとても便利になった。一方で、人との直接的な関わりが減り、“町内会に入ることが当たり前”、“隣に住んでいる人のことは知っているのが当たり前”という考え方が、馴染まない人も増えてきた。

そんな中で「人と人のつながり、関わりは必要か」ということについて改めて考えていきたいと思っている。

普段当たり前に、“住みやすい”と思っているまちは、例えば、町内会の活動（清掃、見守り、防犯）などの目に見えない活動により成り立っている。また、家を出て近所の人と交わす挨拶で、1日が気持ちよくスタート出来ることもある。

人の心を豊かにする、豊かな暮らしの実現には、人との関わりや地域との繋がりが、これからも大切である。

しかしながら、地域コミュニティに関わる私たちが“町内会に入ることが当たり前”という考え方に固執しては、思いは掛け離れていくばかり。急速に変化する社会に柔軟に対応していく時期がきているのではないか。

昨年の地域コミュニティ部会の内容を振り返る。第1回目の部会では、各学区の町内会加入率・未加入者の声・加入率アップに向けた取組事例を共有した。第2回目の部会では、新しく北区に転入される方、町内会に入っていない方、特に戸建の方の町内会加入率アップに向けた取組について議論した。

昨年の議論のまとめとして、地域の取組では、「学区が1つにまとまる事業やイベントなど、魅力ある学区づくりを進める」ことや「挨拶を行うことや情報発信など、出来ることから実施する」ということを確認した。

地域と北区役所が連携する取組としては、「北区役所が作成するビラ等に町内会の役割や行事を掲載する」ことや「転入者向けのチラシに連絡票を添付し、地域の方へ橋渡しを行う」ことなどを確認した。

そして、今年度については、昨年度の議論で対象から外していた、マンション住民、大学生、町内会に入っているが退会される方をテーマに議論していきたいと考えている。

今年度2回ワークショップを開催するが、本日は、対象者の思い・地域の活動を知る、2回目は11月に開催する予定であるが、地域の取組の紹介、ご自身の学区での取組アイデアの検討を予定している。

本日のワークショップの流れについてであるが、とにかく現状把握に徹してみようということを進めていきたい。

ステップ① まずは、対象者の思いや現状を想像するということ。例えば、マンション住民を例に挙げた場合に、どういうことを思っているかなというところに想像を広げていきたい。例えば、「役員が面倒臭そう。」、「町内活動を知らない。」、「子育てや仕事で忙しいから町内会に関わってられない。」というようなこと。ステップ②では、地域での取組を知る、じゃあ地域ではどういうことをしているの？ということを考えていきたいと思う。

地域の現状として、そもそも、“マンションには回覧板は回していない”、“子連れで会議に出られない”、“町内会としてそもそもマンションを対象としていない”受け入れの態勢も実は出来ていないのかもしれない、そういったギャップというのがこの2つのステップで見

えてくるかと思う。

今回、テーブルによってテーマが分かれている。A・Bテーブルでは、負担感を持つ人、C・Dテーブルでは高齢者、E・Fテーブルでは大学生と、学区によってテーマが分かれている。テーブルの中に当事者として大学生はいるが、それ以外のテーマの人については、想像を膨らませていただいて話をしていただきたい。

資料の上に黄色い名札があった人は、役を与えているので、その役になりきっていただいて話してもらいたい。

同じテーブルにはいろんな方が居る。現在、地域で活動している人には、改めて当事者に思いを馳せ、また、地域の実情を教えていただきたい、活動していない人には、立場や年齢を超えて沢山意見を出していただきたい。

○部会長

ありがとうございました。

テーブルによってテーマが違う。それぞれのテーマに沿ってお話を進めていただきたい。分からないことがあれば、各テーブルの進行役に聞いていただきたい。

それでは、ワークショップを始めていきたいと思う。各テーブルの進行役さん、よろしく願います。

【各テーブルのワークショップ】

＜Aテーブル：紫野学区＞西原まちづくりアドバイザー

テーマ：負担感を感じている人

○西原アドバイザー

このテーブルでは、若い世代でも町内会を抜けていく人、そういった人がなぜ抜けていくのかということについて、考えていきたい。

○A氏（地域）

コミュニケーションの取り方が分からないという人が多いように感じる。若い方は、いろんな年代の人とコミュニケーションを取るという習慣がないのではないか。そのような人と話す機会をどう作るかが難しい。

○B氏（地域）

私は、両親が地域の役をしており、子供心に、仕事を抜けて、なぜ儲からない仕事をするのかと、内心反対していた。ところが、自分が大人になり、PTAの会長をしてからは、考え方が変わった。自分の生活圏の中で楽しんで活動が出来た。

若い頃は、地域の役は、やりたい人だけ、好きな人だけが勝手にやればよいと思っていた。今の若い人たちも、面倒臭い、仕事で忙しいという人が多い。

役をしたくないと思っている人に役が当たった時に、非協力的。回覧板を回すだけで他には何もしない。

○川妻室長（負担感役）

私は、フルタイムで仕事をしているので、土日や平日の夜の時間帯の会合に呼ばれたり、各種イベントに出ないといけないことが負担で、面倒臭いと思う。子供の頃から育った地域であれば、近所の人を知っているのだから、役が回ってきても、受け入れられたかもしれないが、

環境が変わり、近所の人のことを知らないとなると、回覧を回すことが精一杯。

○A委員

私は、一度左京に住んだことがあるが、元々住んでいた場所と移り住んだ場所では、町内の関わり方に違いがある。移り住んだ場所では、密な繋がりがなかった。上賀茂学区では、昔から住んでいる人は、町内会に入られているが、県外から引っ越して来られた方、特にマンション住民は入っていない。子供が小学校に入ると、周囲との繋がりが出来て、入られることも多い。

○A氏（地域）

昔は、区民運動会やソフトボール大会に地域内にある会社の寮の人に声かけたら出てくれた。今は集まらない。町内会に入っている人も高齢化している。

マンションもオートロックになっているので、コンタクトが取りにくい。単身者のマンションについては、管理会社が地域とのつなぎ役をしてくれたらいいと思うが、小さいところは難しい。マンション住民とは特に繋がりを作るのが難しい。

○西原アドバイザー

今の話をまとめると、移り住んだ土地に愛着がない、仕事が忙しく参加出来ない、担い手層が高齢化している、ということかと思うが、その他にどのような負担があるか？

○A氏（地域）

町内会費が負担ということもある。マンションでは管理費と別に町内会費を取る。また、管理組合の役と重なって出来ないという人もいる。

○A委員

役が回ってくるのが嫌で辞めるという人もいる。

○川妻部長（負担感役）

氏神さんへの寄付なども沢山ある。また、地域外に楽しみが沢山あるので町内のイベントへの魅力を感じられないということもある。

○西原アドバイザー

他の楽しみがあるので、地域のつながりを求めなくなってきたのか。負担というよりかは、魅力を感じないというところが大きいかも。

○C氏（大学生）（負担感役）

子供が居れば、子供を見守ってもらえるという安心感があるかもしれないが、子供がいなければ、町内会の人と関わるメリットがないかもしれない。

○B氏（地域）

メリットデメリットの話になれば、デメリットの方が大きいと思う。

○A氏（地域）

役などをすることによって生まれる責任感がポイントになると思う。人と関わることによる喜びは、責任感と比例しているように思う。

○B氏（地域）

役をすることをメリットと捕えるか、デメリットと捕えるかは、人によって違う。役を受ける前は、なぜしないといけないのかと思っていたが、2～3年やるうちに、変わってきた。今となっては、やらないと損だと思うが。自分の幅が広がると思う。

○A氏（地域）

人と協力して実施することが多いので、自分も成長する。

○西原アドバイザー

役を楽しみと思えるかどうかは、その人の元々の素質と、経験から得られるものがあると思うが、結局は、やってみないと分からないということだと思う。

しかし、仕事で忙しい人には、その点が難しいのではないか。また、子供がいない場合、負担感ばかりを感じるのではないか。実際の負担というよりは、負担の感じ方が違うということかと思う。負担しか感じていない世代にどのようにアクションしていくか。

○C氏（大学生）（負担感役）

一回入ったが抜けようと思っている人は、町内会に入って得るものより嫌な気持ちが上回っているということ。抜けたいと言ったときに、なぜ抜けたいか原因を追究して、解決してこうということになれば、辞めずに留まってくれると思うが。

○B氏（地域）

挨拶をはじめとした声掛けが、とにかく大事だと思う。

○西原アドバイザー

個人の意識や環境により、入る、入らないということを決めていくように変化していて、そうなるとメリットデメリットの話になる。

○B氏（地域）

入っていない人に入ってもらえる機会として、うちの学区では、町内で車の通行を止めて、地藏盆の足洗いを行う。ご馳走やお酒なども沢山用意して、町内会に入っていない人も含めてお誘いすることをしている。それをきっかけに町内会にお誘いする。運動会でも足洗いがあるが、そもそも出ない町内会があるので寂しくなっている。また、共同募金などについても、辞退されるような町内もある。

大学生から見て、町内会は入りにくいものだと思うか？

○C氏（大学生）（負担感役）

町内会費を払っているかどうかに関わらず、町内会の輪に入れるかどうか分からない。楽しそうだと思うが、入りにくい。その中に1人だけでも挨拶している人がいれば、入れると思う。会費や役が面倒というのは理由付けの一つ。人間関係が出来ていれば、自分がしないとあの人が困るなど思える。

○西原アドバイザー

30～50代の人に地域側がどのようにコミュニケーションを取っているのか、フォローしてなさそうな気がする。町内会長の人柄によるところが難しい点だ。

<Bテーブル：紫竹学区>大塚まちづくりアドバイザー

テーマ：負担感を感じている人

○D氏（大学生）（負担感役）

入ってなくても支障がないのであれば、入らないと思う。入らない方が自由に時間を使える。同世代の人がいないと行きにくいと感じる。

○鈴木係長（負担感役）

子育て中だと、いつ役が回ってくるかが不安で、役が当たるとしんどい。学校のPTAや、幼稚園の役と町内会の役とが重なったらどうしようを考える。

昔みたいに近所とのつながりが薄れてきていて、町内会に入っていないでも生きていける。町内会が何をやっているかが見えていないので、メリットを感じられないという人が多いと

思う。防災、ごみ置き場のことなど、町内会でやっていることが見えないと有難いと感じられない。

○B委員（負担感役）

町内会に入っていることがあるのか分からない。町内会費に対して取り組まれていることに価値を見出せないように思う。町内会費については、町内により差があり、300～400円くらい。また、町内会費として募金を一緒に集めているところもある。特に若い人は、メリットが感じられないのではないかな。

役がすぐに回ってくるので、負担に感じる人も多い。

○E氏（地域）

町内会は、新しく引っ越してきて来た方にとって、知らない土地で沢山のひとと知り合ういい機会だと思う。地域で挨拶してもらえることが支えになったりする。悪いことばかりではないと思う。

○大塚アドバイザー

子育てだけでなく、仕事で忙しいということもあると思う。

○C委員（地域）

町内会に入ることが嫌だと思っている人にとって、入らない理由はいくらでも出てくる。邪魔臭いと思っていると思う。遊んだり、好きなことをするのに時間を費やすことへの優先順位が高く、地域への目が向かない。誰かに頼まれた時に初めて、考えるのかもしれない。

○D氏（大学生）（負担感役）

町内会のことを知らなくても日常的に支障はない。

○鈴木係長（負担感役）

土日に駆り出されることが負担。出掛ける予定が立てにくい。また、自分の家族の構成を知られることを嫌がる人もいる。

○大塚アドバイザー

役員以外の人を感じる負担は何があるか。

○B委員（負担感役）

役員以外の人が会合に出ることはないが、役が回ってくることに負担を感じたり、運動会などのイベントにも関わりたいくない、回覧板も回ってこなくていいという人がいる。

○C委員（地域）

個人情報の関係で、町籍簿を捨てろと言われたことがあるが、その時捨てずに置いていて、今役立っている。災害などがあった時に、役立つ。

町内会長が輪番制になっていることを嫌だという学区もあるが、紫竹学区では、いいことと思っている。町内会長を経験することで意識が変わる。始めたときと辞めるときとで人が変わったようになる。祭りや、防災訓練など様々なことに関わってもらい、月に1度は集まっていたが、100%出席いただいている。

○E氏（地域）

紫竹学区では2箇月に1回、公園に集まって町内の清掃活動を行っているが、その後豚汁を作って食べたり、花見団子を食べたりしている。100人ほどの人が集まる。みんな話しながら清掃活動も行い、いい雰囲気。

○大塚アドバイザー

役員の仕事を受けることへの負担、仕事や子育てなど、時間がない、町会費が何に使われ

ているか不明、町内会費に係る負担、人間関係が煩わしい、また、健康面などの理由、町内会の優先順位が低いということが意見として出た。

これからの時間はこれらのことに対して、どういった取組をされているかについて議論したい。

○E氏（地域）

紫竹学区では、役員のアイデア一つで、イベントを実現できる。どうすれば人が集まるかを考え企画している。

○C委員（地域）

昨年作った学区ビジョンでいくつかプロジェクトを立ち上げたが、その中の町内応援プロジェクトでは、町内会の中の人全員に声掛けをして実施する取組に対して1万円の補助を学区として用意している。

○E氏（地域）

その取組の一つとして、お月見会を企画した。町内の子供を中心に、皆さんに声掛けを続け、明日実施する。月が見えなかった時のために、段ボールで月を作ったり、ススキをもらってきたり、楽しい企画となるよう準備している。

老若男女にお越しいただき楽しんでもらえることを目指し、町内会に入っている、入っていないに関わらず、とにかく声掛けするようにしている。

○C委員（地域）

町内元気応援プロジェクトを活性化させるために、29町内の中の数人で、チームを作った。町内会長として町内のことだけするのでなくて、学区に目を向けてもらおうとしている。

まず一つは、町内会の役員の仕事が重いという意見に対して、負担感を減らせるように、町内会長の助っ人をチームから派遣している。どうしても役が出来ない高齢者については、役を免除するようにしている。

地域への意識を高めてもらうには、役をすると楽しいと感じてもらうことが第一。地域活動することが自分にとって得になると感じてもらえるように思っている。

イベント企画など、面白い役を設けている。とにかく楽しくないと続かない。

費用を免除することはしていない。免除すると不公平感が出てくると思う。

○大塚アドバイザー

どういうアクションをされたら、町内会に入ろうと思うか？

○D氏（大学生）（負担感役）

楽しいイベントには魅力を感じる。また、困ったときに助けてもらったというような経験があれば、入ろうと思う。

○C委員（地域）

災害の時に力になるのは町内会だということを言い続けている。体調面のことが理由で負担を感じている人にも、災害の点をお伝えしている。入るメリットより、入らないデメリットを説明している。

○E氏（地域）

防災のことで声掛けをしていると、町内の人も意識が高まってくる。

○大塚アドバイザー

実施している取組をまとめると、役員の仕事を経減するためのプロジェクトチームを作っている、面白いと思える役を作ること、また、場合によっては役員を免除するようなことも

している。お金の面について、減免制度は設けていないが、学生が入るといったときに軽減を検討してもいいかなと考えている。地道な声掛けが大事だが、一番大事なのは楽しむこと。町内会に入らないデメリットをきちんと説明しているといったことだったかと思う。

忙しい世代への取組が話せていなかったが、何かあるか。

○C委員（地域）

一人ではだめ。同世代の人を三人集めて、楽しみながらイベントの準備をしてもらうよう配慮している。

<Cテーブル：上賀茂学区>松井係長

テーマ：高齢者

○D委員

年金生活で町内会費が払えないという経済的な負担、また、体調面で不安があり、役が回ってくるなら町内会を抜きたいという人、地域の代表が嫌いだから辞めたいというようなことも聞く。

○E氏（大学生）（高齢者役）

体調面のことが大きいと思う。自分自身だけでなく連れ合いの体調などもある。自分の祖父は、町内会の中に居場所がなくなったと言っていた。

○藤田室長（高齢者役）

特に、長い間町内会の活動をやっていた人は世代が変わると自分の意見が通らなくなって入りにくいということがあるかもしれない。

年を取ると、何をするのも面倒になり、億劫になる。目も見えにくくなって、資料も見難いし、理解も遅くなり、役が億劫になるということがある。昔は近所の人に助けってもらわないと生きられなかったと思うが、今は近所の人のおかげがなくても、様々なサービスが充実しているので生きていけるようになっている。

○E委員（地域）

一番多いのは、高齢になり役が持てないということ。町内の役員会で高齢者については役の免除をしたらどうかという提案をしたことがある。独居老人の方からは、年金生活で、町内会費だけでなく多くの寄付をしなければいけないことが負担だと聞く。また、自分一人で生活していけるので、構ってくれるなという人もいる。

学区全体として、高齢の人の役を免除するようなルールを作る必要があるかもしれない。

阪神淡路大震災のことを思い出すと、消防が来るまでにかげきの下から救助したのは近所の人。普段から地域の付き合いが必要だ。

○F氏（地域）

75歳までは気力と緊張感がまだある。75歳から段々といろんなことが面倒臭くなってくる。人との付き合いも疎かになってくる。

○松井係長

役とは具体的にどんなことがあるのか。

○F氏（地域）

様々な会議に出席したり、集金、上賀茂まつり、行燈まつりなどで忙しい上に、責任感が伴い負担になる。上賀茂学区は、42町内あって、任期は1～2年、10年に1度くらいの頻度で役が回ってくる。1箇月に5～6枚の回覧が回るが、それも大変。

○D委員

町内会費の中でも町内会には入っているが、神社や共募は断るといふ人もいる。人により集金額が違ふことも組長としては負担に感じるのでは。

○松井係長

それでは、今出た意見について、どういふことを地域で取り組まれているか。

○E委員（地域）

寝たきりの方、町内会費だけだったら払うけれど、動くことは無理だといふ人からお金をもらいにくいと思う。町内だけで話をしても話が進まないで、学区全体として、総会などで決めていかなければいけないと思う。

○藤田室長（高齢者役）

最終的にはみんなしんどくなるし、動けなくなる。そういったことが共有出来ればと思う。

○F氏（地域）

マンション20軒中1軒、若い人の世帯は、120軒中20軒しか町内会に入っていない。若い人はそれでも平気だ。町内会に入っていない人には、市民しんぶんも配らないし、国勢調査もしないといふ町内会長もいる。

○E委員（地域）

グラウンドゴルフ大会、すこやか教室やハイキングを高齢者の方を対象にして実施している。昨日は、上賀茂学区の敬老会をプリンスホテルで行ったが、きれいに着飾って来ていただいた。小学校で実施していた頃は、みんな普段着だった。こういった気力を持ってもらうことも健康でいる秘訣だ。

○E氏（大学生）（高齢者役）

参加者が毎回同じといふことはないのか？

○E委員（地域）

確かに、新人は珍しい。もし新しい人が来られた時は、周囲にいる人が、他の方と話が出るように繋ぎ役をしてくださといふ言っている。せつかく来られたのにポツンとされていたら、もう来られなくなる。そういう配慮も大切だと感じている。

○D委員

楽しく誘い、楽しく参加してもらうにはどうしたらいいかといふところがポイントになりそう。

○E氏（大学生）（高齢者役）

こういった取組は町内会に入っている人だけが対象なのか。

○E委員（地域）

主な事業は、町内会費で行っているで、声掛けも町内会に入っている人が対象。ただし、運動会は寄付で行っているで、町内会に入っていない人も対象にしている。それをきっかけに町内会に入ってもらいたいと思っている。

しかしながら、運動会では町内会のテントがあり、そこに行ったときに町内会に入っていない人にはお弁当やお菓子を配らないことがあるかもしれない。そうなるとう疎外感が生まれることになる。

<Dテーブル：待鳳学区>朝倉まちづくりアドバイザー

テーマ：マンション

○G氏（地域）

マンションでも分譲と賃貸とで町内会入会に大きく差がある。また、マンションは分譲であっても、戸建てより人の移り変わりが激しい。また、セキュリティが厳しく、関わりを持つのが難しい。マンションの建設時に、町内会に入っていたきたいということを訴えても、強制することはできない。

コミュニティに関わりを持ちたくないからマンションに住むという人も多い。

○H氏（地域）

マンションの管理組合費と町内会費と両方を払わなければいけないことも負担になる。子供が出来るとう町内会に入ろうという気持ちになる人が多いと思う。

○F委員

町内会費の集め方も、場所によって違う。マンションでも1軒1軒町内会費を集められているところは、少し意識が高まると思う。

○G委員

マンション建設の情報が入れば、すぐに地域が動くようにしなければいけない。京都市ではマンションと地域の連絡役をする取組があるが、地域からの働きかけがないとだめ。

○片木課長（マンション住民役）

私は、マンションに住んでいるが、マンションの中で町内会に入ることが否決された。役が面倒臭いといった意見、また、災害時にマンションが倒壊することが考えにくいということから、地域に頼らなくても大丈夫という意見だった。しかし、中には運動会に参加したいので町内会に入りたいという人もいた。

○G氏（地域）

多数決にしてしまうと、町内会に入ろうという意見が勝つことは難しい。個人個人で入れるようにすべきだと思う。

○F委員

中京区では、マンションごと町内会を辞めるというところが増えてきている。マンション1棟で町内会を作るということならいいが、全くやめてしまうということも起こっている。

○I氏（大学生）（マンション住民役）

大学生という立場では、身近に町内会を感じるものがなく、町内会のことを知らない。参加したいと思うような活動がない。

○G氏（地域）

学生さんに夏祭りのブースを任せたいと考えているが、参加したいと思うか？

○I氏（大学生）（マンション住民役）

時間が掛かることへの参加は難しいと思う。限定的に「これだけすればいいので来て」ということであれば、可能性があるかも知れないが。私は、マンションに住んでいるが、隣に住んでいる人のことも知らない。引っ越しの時も、管理会社からも隣近所への挨拶は不要だと言われた。

そもそもの話になるが、ごみが落ちていたら拾うし、会ったら挨拶もする、それが当たり前なので、町内会に入らずともやっておき、町内会に入らないといけないという意識がない。

○G氏（地域）

学生アパートに声を掛けて、運動会に出てくれとお誘いしている町内がある。それをきっ

かけにして他のことにもお誘いしたりもしている。例えば、子供の頃にご両親が役をやられている場合、一緒になってやるような経験を子供の頃にしていると、町内会の印象も違うのではないか。

○I氏（大学生）（マンション住民役）

そもそも、大学生は町内会に入る対象として、ターゲットにされていないのでは。もし対象にもしていないということであれば、寂しい。

○G氏（地域）

対象にしていないということはないが、大学生は数年で引っ越すこともあり、なかなか声を掛けづらい。大学生に防犯と言っても、若く力もあるので、自分たちの問題としてぴんと来ない人も多い。

○I氏（大学生）（マンション住民役）

学校とバイトが時間を占めていて、休みの日にもサークルがある。とても忙しい。

○F委員

特に女子学生なんかは、防犯については気になる場所である。安心して住める町はみんなで作っているものである。また、町内会は義務ではないので、運動会や地蔵盆など、何か関わりがある機会に参加してもらおうというような軽い気持ちで参加したらいいと思う。

○G氏（地域）

マンションの方について、アクションが出来ていない町内もあるかもしれない。お願いはしているが、町内会長さんがどうされているかまで追求していないので、もしかしたら、案内も古紙回収に回っているかもしれない。

○朝倉アドバイザー

待鳳学区内にあるマンションに何かアクションしてみたということはあるか？

○G氏（地域）

恥ずかしながら、これまでマンションはターゲットにしてこなかった。

○G委員

町内会長の力量はあるが、継続的に諦めずにマンションにアクションしていくことが大事だ。すぐに効果はないかもしれないが。

○G氏（地域）

小さいマンションだったら、挨拶がてら顔も覚えるが、大きいマンションはアクションが取りにくい。最近では表札も出さないところがある。

○片木課長（マンション住民役）

知らない間にまちがきれいになっているのは、町内会の人やってくれているから。一緒に掃除しないか、という声掛けなどをされてはどうか。

○H氏（地域）

清掃活動を学区でも行っているが、マンションの人には、声掛けしてもだめだろうという思いから、そもそも声掛け自体をしていない。

○朝倉アドバイザー

ファミリータイプのマンションには、行事に参加したいので、個別に町内会に入りたいという人もおられる。そういう人たちを受け入れる体制が出来ていることが大事である。また、単身者向けのマンションについては、他の大学生テーブルなどで話が出ていると思う。

まず、顔見知りになってということがポイント。

○G氏（地域）

SNSなどのメディアを使った情報発信をしていかないといけないと思っている。紙媒体と並行して出来ればいいと思う。若い人は自分たちにはない感覚を持っている。

○G委員

SNSを大学生に作らせてはどうか。賞金制にして募集したら、大学生は食いつくと思う。それをきっかけにして地域に関わってもらえるようになるかもしれない。

○I氏（大学生）（マンション住民役）

大学生はお金がないので、お金をもらえたり、節約出来るようなメリットがあれば、集まると思う。みんなでバーベキューをするなど、入りやすい入口があればいいと思う。

○F委員

町内会でバーベキューしよう、ただし、その前に草刈りしようとか。大学生は町内会員というよりかは、サポーター的な存在として手伝ってもらえるようにしてはどうか。

<Eテーブル：鷹峯学区>田尾まちづくりアドバイザー

テーマ：大学生

○J氏（大学生）

そもそも、大学生生活の4年しかいないので、町内会に関わっていいのか分からない。また、町内会に対して知識がない、何をしているか分からない。

○K氏（大学生）

住んでいるマンションに町内会の回覧が回ってこない。自分の住んでいるマンションはオートロックかつインターホンがないので、知らない人とコンタクト出来ないようになっている。

○H委員

町内会の人と学生の世代が違うため世代間のギャップがある。

○L氏（地域）

マンションと一般の民家とに違いがある。マンションのオーナーに町内会への理解がない。大学生の入っているマンションではゴミ、騒音、自転車が三種の神器として問題になっている。

○M氏（地域）

マンションのオーナーが協力的かどうかによって大きく違う。マンションとしてまとめて町内会費を支払うところもある。

○K氏（大学生）

他人と関わりたくない学生が沢山いる、また、大学生以外との関わりを求めている人も沢山いる。対外的に価値観を学びに行こうという人が少ないように思う。

○H委員

地域側としても、町内会に入って何かしてほしいと思っていないのではないかと。

○M氏（地域）

町内を盛り上げるために運動会に出てくれないか、というような町内があれば、盛り上がると思うが、町内会に入っていないなら参加してくれるなという町内もある。昔は下宿などがあり、一緒にご飯を食べたり、一緒に町内会活動に出たりしていた。

○L氏（地域）

災害があった時に困る。住んでいる人を知らないと助けることも出来ない。遠くの親戚より近くの他人。

○K氏（大学生）

京都以外から来た人にとって、京都の人は少し怖い印象がある。

○M氏（地域）

京都では、お愛想の言葉を真に受けて行動に移すと、厚かましいと思う人もいる。適度な距離感が必要かもしれない。

○田尾アドバイザー

世代間の違いかもしれないが、今は直接人とつながるより、ネットで繋がるようになってきている。

○J氏（大学生）

男子大学生は、防犯などあまり気にしないが、女子大生は、社会と関わることに怖さを感じている人が多いように思う。個人情報を知られたら怖いと思っている。

○M氏（地域）

通勤や通学するときに、毎朝「おはよう！」と挨拶されることについて、どう思うか？

○J氏（大学生）

自分は嬉しいと思う。

○K氏（大学生）

そういう習慣がある人にとっては、自然なことかもしれないが、話し掛けてこられることを鬱陶しいと思う人もいる。

○J氏（大学生）

バイトで忙しいので、町内会の夜の会合などに参加出来ない。大学生は忙しい。町内会はネットで入ったり出来ないのか？入り方が分からない。

○M氏（地域）

鷹峯の場合は町内会長が訪ねていく。

○H委員

町内会に若者部のようなものがあればいいのではないか。

○J氏（大学生）

一緒の町内に住んでいる他の大学生と仲良くなれたら嬉しい。

○K氏（大学生）

地域の中でバイト的に仕事を作ってくれたら嬉しい。外で出来るバイトは内容が限られていて楽しくない。例えば、町内会に入っているお店の割引があるとか。

○田尾アドバイザー

まとめると、学生の気持ちとしては、町内会がよく分からない、自分たちが入っていいか分からない、費用面の問題、時間的な問題、長期休暇に地域にいない、他人と関わりたくない、価値観が違う、社会の流れから閉鎖的になっている、不動産屋さんの町内会への理解がない、期間限定で住んでいるということが上がったと思う。これからは、地域側の取組を考えていきたい。今学生に対してしていることや、新しいアイデアなどを出していこう。

○J氏（大学生）

町内会費はいくらくらいなのか？

○M氏（地域）

月300～400円。

学区で学生部のようなものが出来たらいいかもしれない。まず、学生にアクションをするきっかけがない。この場に大学生がいること自体が凄いなと思う。

学生マンションだなということは分かるが、学区内にどのくらい大学生が住んでいるか知らない。

○J氏（大学生）

町内会の会合に出たことがあるが、町内会長をじゃんけんで決めていた。じゃんけんで負けた人が高齢者で、自分は出来ないと言っているのを見て、これではいけないと思った。例えば学生を雇って、活動してもらうことをすればどうか。

○K氏（大学生）

趣味サークルのようなものがあれば、交流が生まれると思う。

○M氏（地域）

バレーボールや卓球などはある。

○J氏（大学生）

大学生は地方から来ていることが多いので、地域の中で友達が出来れば嬉しい。また、銭湯で地元の人との出会いがあり、会話が生まれる。毎週○曜日は銭湯の日が出来たらいいのに。

○K氏（大学生）

今若者だけがネットツールを使っているが、実はそんなに難しくないので、教えたりするような機会があれば。

○J氏（大学生）

地域の方と一緒にご飯を食べられるようなことがあれば、嬉しい。コンビニ弁当などを食べるより、手作りのご飯を食べたい。また、学生向けの地域アプリのようなものがあれば。ラジオもテレビのあまり使わないので、携帯電話が中心になっている。

○K氏（大学生）

住民票を移していない人は、役所に行く機会もなく、町内会にどうやって入るかを知る機会がない。入学式などで町内会のPRをしてはどうか。住民票を移さない理由としては、住民票を移してしまうと地元の成人式に行けない。

○H委員

一般の転入者向けのチラシは作られているが、大学生向けのチラシにしないと大学生には届かない。

○K氏（大学生）

一度全部白紙にして、全年代で新しく町内会を作ったらどうか。人との繋がりがある魅力的な町内会があるので、この地域に住みたいと思われるように。町内会が利益を出せばいいのではないか。

○L氏（地域）

こういった会議で話して終わりではなく、それをどう実行に移すかが大事。結果がどうなったかが分からない。せっかく話しても、話しっぱなしで、結局どのような取組に繋がったか分からない。

○J氏（大学生）

町内会に入っていたら、地元のスーパーで割引があるというようなことがあれば。

<Fテーブル：金閣学区>松井まちづくりアドバイザー

テーマ：大学生

○N氏（地域）

地域では学生がどこに住んでいるか把握していない。表札も出していないので、誰が住んでいるかも分からない。

○I 委員

親も町内会活動に熱心ではなかった。小さい頃に資料の配布を手伝ったことはあるが、町内会は親がやるものという印象がある。

○室谷課長

地域として、学生には声掛けをしていないのではないか。

○O氏（大学生）

大学生が町内会に入らないのは、知り合いがいないからだと思う。

○I 委員

町内会のことをやっている時間があるならバイトをしたいと思う。町内会は結婚して所帯を持てば入るというイメージがある。20代には縁がない。

○室谷課長

大学生と新卒の社会人とに違いがない。社会人でも単身の人は入らないと思う。

○O氏（大学生）

私は、地域の人に町内会に入りたいと言ったら、地蔵盆も何もない、お金も掛かるので、入らない方がいいのでは？市民しんぶんは配るのでと言われた。

○I 委員

左京区出身だが、子供の頃に地蔵盆に参加したことがない。親が協力的でなかったと思う。

○P氏（大学生）

今住んでいるマンションで地蔵盆のお知らせを見たとしても、行かないと思う。

○I 委員

知り合いが一人でもいたら違うと思うが、地域で地蔵盆をやっている、内輪感があって入りづらい。また、ただで飲み食い出来るというより、お金を払う方が行きやすい。

○O氏（大学生）

一人で参加するのはハードルが高い。友達を誘っていくようなことが出来ればいいと思う。

○Q氏（大学生）

大学生の時間の使い方としては、6時間睡眠、6時間大学、6時間バイト、残り大体6時間ほどが自由時間になる。バイト代としては、月8万円くらい。

○松井アドバイザー

この6時間ほどで町内会のことは考えられないかもしれない。大学生は忙しい。

○O氏（大学生）

私は、子供の見守り活動をしたいと思い、小学校に直接電話して、会長に繋いでいただいた。小学生のために何かをしたいと思った。ゼミの友達を活動に誘っている。

朝早起きして、8時から見守り活動を行い、その後大学の学食で100円で朝ご飯を食べる朝活をしている。子供にも知り合いが増えた。大学卒業後、県外の地元に帰ろうと思っていたが、京都に留まることにした。

○N氏（地域）

こういった熱心な学生は、一度繋がったら離さない。彼は子供にも大変人気がある。

○Q氏（大学生）

私は、産業大学にあったFASTを参考に、立命館大学になかったFASTを作った。いくつかの学区の防災訓練に呼ばれている。

○松井アドバイザー

大学生を町内会に引き込むために学区として行っていることはあるか？

○N氏（地域）

立命館大学は、他の大学に比べて地域への協力が少ない。知り合った学生は、しつこく声掛けを行い、繋がりが切れないようにしている。

○O氏（大学生）

立命館大学の場合は、ボランティアセンターの職員とつながっていると、地域と大学生の繋がりをコーディネートしてもらえる。今熱心に動いている大学生は3回生なので、下の学年への引き継ぎが難しいと思っている。自分たちの活動は、大学公認のサークル活動ではないので、人を呼び込むのにも苦勞をしている。

○N氏（地域）

学区から繋がりのない学生に学区の中で活動して欲しいというのは、難しい。ただ、地域に繋がっている学生をきっかけにして、広がりを持てるように、紹介してもらった学生には地域のことを熱心に説明し、繋がりを作っている。

○P氏（大学生）

産業大学では地域のことに取り組むグループとして、サギタリウスというグループがある。

○Q氏（地域）

自分たちの年代は熱心だが、下の回生の人たちが少ないので、地域の活動を現時点で広げすぎると、下の代で受けきれないようになる。地域にも迷惑を掛けてしまうので、その点を懸念している。

○I 委員

FASTに求める人材というのはどういうものか。

○O氏（大学生）

地域の人としっかりコミュニケーションを取れる人がいい。

○Q氏（大学生）

地域に積極的に入っていける人材が欲しいと思っている。地域に興味がなくとも防災の視点から興味を持ってもらうこともあると思う。地域に入っていくのには、地域の人との人間関係が重要である。一人だとなかなか行けないと思う。

○N氏（地域）

地域に友達がいらないということであれば、自分が友達になる。若い人と関わることは、自分たちの活力にもなる。

○I 委員

学生は受け身なことが多いと思うので、そのきっかけをどう作るかだ。朝活的な活動はすごく面白い。大学生はその先に就職活動がある。社会人の準備として朝活を行うことは、とてもいい流れかもしれない。

○N氏（地域）

今繋がってくれている大学生を大事にして、そこからの広がり期待する。

〇〇氏（大学生）

オープンキャンパスのタイミングは親も一緒に来るので、その機会に立命館FASTと合同で地域のブースを設け、学区のいいところなどを紹介してもらえたらとてもいい機会になると思う。

~~~~~

## 〇関谷部会長

それでは時間が来たので、各グループからの発表に移っていただきたい。Aグループからお願いする。

【Aグループ】紫野学区：負担を感じる人

### 〇西原アドバイザー

作業などの物理的な負担だけでなく、気持ち的な負担についての議論になった。やりがいを持って楽しくやっている人と、負担だけを感じる人がいる。また、やることは昔と変わっていないけれど、担い手が減ってきている。

移り住んできて地域に愛着がないことや、地域以外に楽しみを沢山持っているということで、地域への思いが薄いことが要因かもしれない。

実際に、地域のことに関わっていなくても、印象としての負担感が増しているのではないか。地域の会長は、やってみたからこそ分かる、繋がりや学びや喜びがあると言われるが、それは経験しないと分からないことで、経験していない人には伝わらない。

どうすれば負担の感じ方を軽減出来るかについて、紫野学区では地藏盆や運動会などの後に足洗いをを行い、楽しみを感じてもらうような工夫をしている。

物理的な負担を減らすというよりかは、負担に感じないようにどうすればいいかということがポイントだということ話を話した。

【Bグループ】紫竹学区：負担を感じる人

### 〇大塚アドバイザー

役になって責任を負うことへの負担、子育てや仕事など時間的負担、町内会費や寄付金など経済的負担、人間関係への負担、体調面での負担という5つの負担が出た。

それらの課題に対する地域での取組について。役への負担に対しては、地域の中でプロジェクトチームを作り、助っ人として関わり、負担を分散させる。また、イベントの企画など楽しい役を沢山作る。

時間的負担に対しては、同じ環境にいる、例えばママさん友達と一緒に活動をすれば、もしかしたら、負担を感じずに取り組んでもらえるのではないかとということ。

経済的負担に対しては、現在減免などはしていないが、学生は軽減制度を考えていきたいと思っている。

人間関係の負担に対しては、ご近所さんのお陰で救われた経験などがあれば負担を感じないのではないかと。また、地道な声掛け運動を実施していくことや、そもそも、町内会が楽しくないとだめだという話が出た。

体調面での負担に対しては、災害対応を理由に、町内会のメリットを説明するのではなく、入らないデメリットを説明すればいいのではないかと話が出た。

とにかく、楽しいイベント企画が大事。まずは、そういった楽しい企画に沢山の人の参加してもらうことが第一歩。

#### 【Cグループ】上賀茂学区：高齢者

##### ○松井係長

高齢者については、とにかく役がしんどく、負担に感じられるという意見が圧倒的に多かった。その他、経済的な問題、人間関係、体調面の課題がある。

役の内容としては、イベントの要員、選挙の準備、地域イベントに至っては数箇月前から準備するなど。

高齢者に対しては、すこやか学級、グラウンドゴルフ大会などのイベントを実施している。それぞれのイベントを楽しくする、また、新しく来てくれた人には、その人が気軽に輪に入れるような配慮をしている。

現在、高齢者に対して、減免措置などはしていないが、地域の総意であれば、今後考えていきたいということであった。

#### 【Dグループ】待鳳学区：マンション

##### ○朝倉アドバイザー

そもそも、町内会が何をしているか分からないという意見が多かった。

マンションの管理組合費と町内会費の両方を払わなければいけないことや、防災面では地域の助けは必要ないと考えている人もいるという意見もあった。

そもそも、人間関係の煩わしさを避けてマンションに住んでいるという人も多く、管理会社もそれを前提で話をする。

ワンルームタイプのマンションについては、学生さんが多いと思うが、学生は、自分が町内会に入ると意識がない。また、地域側からも接点を持ちにくい。

町内会に入っていないなくても顔見知りになれるようなきっかけ作りが大切。ファミリータイプでも若い世代には負担を軽減するようなメニューを用意することや、マンション全体で入ることが難しい場合は個人で入れるように配慮することなどが必要という意見があった。

#### 【Eグループ】鷹峯学区：大学生

##### ○田尾アドバイザー

大学生は、町内会との接点がなく、入っていいか分からない、町内会費が負担、アルバイトなどで忙しく、時間が取れない、いずれその地域を出ていくので、入る必要がないと思っているというような意見が出た。社会全体の流れかもしれないが、直接地域の人と関わるより、ネットで世界中の人と繋がれる時代であり地域との繋がりを求めているのかもしれない。

マンションの大家さんや不動産屋さんが町内会に入らなくてもいいという考え方だったりする。

大学生の町内会との関わりについて、町内会で活動したら会費がただになる、インターンとして学区活動に参加する、学区の組織として学生部を作る、趣味のサークルを作る、地域の方が作ったご飯と一緒に食べられる機会という意見が出た。

大学生にはなかなか案内が届かないので、大学の入学式などに地域の案内が出来ればいい

のではないか。地域のアプリで情報を発信するという意見も出た。

このような場で話をするだけでなく、地域や行政、大学で連携して実行していくのが大事だという話でまとまった。

【Fグループ】金閣学区：大学生

### ○松井アドバイザー

大学生が、なぜ町内会に入らないかということについて。実家でも町内会があったと思うが親が熱心ではなかったので、自分が入るというイメージがないという意見が出た。

また、知り合いが居ないところに、入りづらい。町内会は、社会人で所帯を持っている人が入るものというイメージがある。なので、大学生が就職して社会人になったとしても、結局入らない。

大学生は忙しい、1日のうち6時間ほどしか自由な時間がない。その6時間を町内会のことに使うとなると、やりがいがないければ、ということになる。

オープンキャンパスで、学区の紹介が出来ないかという案も出た。また、熱心な学生さんの友達を参加に繋げられるように、地域の中に友達を作る、同世代、多世代の知り合いを地域の中に作っていきこうということで話がまとまった。

### ○関谷部会長

それぞれの報告について、質問や補足事項があれば、お願いします。(→なし)

それでは、これで本日予定されていた議題はすべて終了した。本日の内容については11月に2回目の部会を予定している。いろんな地域の取組を紹介しながら、本日の議論も踏まえて、更に深めていきたいと考えている。

最後に全体のことについて、質問やご意見があれば、お願いします。(→なし)

委員の皆様、活発で有意義なご意見ありがとうございました。それでは、事務局にお返しする。

### ○○氏（大学生）

今日出た意見をゼミのデータで使ってもいいか。

### ○事務局

どんどん使っていただければと思う。

### ○事務局

関谷先生、ありがとうございました。また、本日ご列席の皆様におかれても、積極的なご議論、ありがとうございました。

最後に、事務局から、本日ご出席の皆様にご案内する。本日の「地域コミュニティ賑わい部会」の第2回会議については、11月27日（月）午後6時30分～8時にこの場所で開催したいと考えている。

本日ご出席いただいた皆様におかれては、是非、次回の部会への参加もお願いしたい。

なお、まちづくり会議委員の皆様におかれては、既に郵送によりご案内を送らせていただいているが、まちづくり会議のもう一方の部会である「ひと・まち活性化部会～“子供を産みたい、育てたいと思える環境づくり”」の第1回部会を10月31日（火）午後6時30分～8時に開催する予定。お忙しい中、大変恐縮だが、お時間の許す限り是非ご出席いただければと思う。

本日はこれで終了とする。長時間にわたり、最後までありがとうございました。